

## 第1回 愛知・名古屋プレスツアー



【実施日】9月17日（火）～18日（水）

【テーマ】＜伝統技術を今に繋ぎ、世界へ羽ばたくものづくり県、愛知・名古屋を知る＞

- ・中部地方の玄関口・中部国際空港が次に目指す姿
- ・日本初の国際空港直結型の国際会議・展示場の戦略
- ・焼失した歴史遺産を蘇らせた匠の技
- ・400年の伝統産業「有松絞り」を世界へー若きアーティストの挑戦ー
- ・ものづくりの礎となった「からくり人形」を守る職人の技

愛知・名古屋は、陶磁器や織物等の様々な伝統産業や基幹産業である自動車産業に加えて、航空宇宙やロボットなど次世代産業についての世界有数の産業集積があります。また、武家文化や「なごやめし」に代表される歴史・伝統文化、豊かな観光資源など、多彩で豊富な魅力もあります。

本ツアーでは、G20 外務大臣会合の開催を11月に控えた愛知・名古屋を訪れ、中部地方の空のゲートウェイである中部国際空港や、伝統技術を未来へつなぐ職人の方々取材します。

### 【取材先】

1. 中部国際空港 （第2ターミナル、FLIGHT OF DREAMS）  
増加するLCC便に対応するために9月20日にオープンする第2ターミナル及び、ボーイング787初号機を展示する空港直結の航空テーマパークを取材します。
2. Aichi Sky Expo  
8月30日にオープンする日本初の国際空港直結国際会議・展示場を取材します。
3. 名古屋城本丸御殿  
焼失した400年前の名古屋城内御殿の復元工事に携わった職人の方々を取材します。
4. 竹田嘉兵衛商店・有松絞り  
400年の歴史を持つ伝統工芸品有松絞りの海外展開に挑戦する若きアーティストを取材します。
5. 玉屋庄兵衛工房  
ものづくりの礎となった伝統技術を今に受け継ぐからくり人形の木偶師を取材します。
6. G20 愛知・名古屋外務大臣会合推進協議会  
G20 外務大臣会合の成功に向けた地元支援団体の取組について取材します。
7. 名古屋観光ホテル  
会合会場を視察します。（宿泊場所にもなっています。）

## 【実施要領】

### 1. スケジュール

※日程は調整中のものであり、予告なく変更になる可能性があります。

<1日目：9月17日（火）>

08:10-09:47 東京駅一名古屋駅（のぞみ15号）  
11:00-12:00 中部国際空港 第2ターミナル  
12:00-14:00 FLIGHT OF DREAMS（昼食含む）  
14:00-15:00 Aichi Sky Expo  
16:00-17:00 名古屋観光ホテル（G20 外務大臣会合開催場所視察）  
18:00-18:30 G20 愛知・名古屋外務大臣会合推進協議会から事業説明  
18:30-20:00 夕食

<2日目：9月18日（水）>

08:30 名古屋観光ホテル発  
09:00-11:30 名古屋城本丸御殿  
12:15-13:15 カフェ&バル庄九郎（昼食）  
13:15-15:15 竹田嘉兵衛商店  
16:00-17:30 玉屋庄兵衛工房  
19:02-20:43 名古屋駅-東京駅（のぞみ250号）

**2. 参加資格：**日本国外に本社を置く報道機関と雇用関係、又は継続的な契約関係を持ち、取材その他の報道上の活動を行う職業記者であること。また、今回のプレスツアーにおける取材により、記事又は番組として情報発信する意思を有すること。

**3. 参加費用：**10,000円（東京駅発着の全行程交通費、宿泊費、食費を含む）  
※お支払い方法、キャンセル料等については、後日、参加者に通知します。

**4. 募集人数：**10名（各社ペン1名、カメラ1名、TVは1社2名まで）  
※申し込み人数が10名を超えた場合は、国別の参加者数に上限を設定することがあります。

**5. 言語：**英語の通訳者が同行します。

**6. 応募方法：**E-mailに必要事項を記入のうえ、お送りください。

(1) 送付先：[shohei.kato@mwt.co.jp](mailto:shohei.kato@mwt.co.jp)

(2) 必要事項：①所属、②所属の本社所在国、③職名、④氏名、⑤性別、⑥メールアドレス、⑦電話番号（当日連絡がとれるもの）、⑧媒体の種類（TV、新聞、雑誌など）、⑨情報発信が可能な媒体名、⑩留意事項等（食事制限など）

※参加の可否は、追ってご連絡いたします。

**7. 連絡先：**名鉄観光サービス(株) 今井、加藤

Tel: 052-211-2315 (日本語のみ)、E-mail: [shohei.kato@mwt.co.jp](mailto:shohei.kato@mwt.co.jp) (日本語、英語)

**8. 備考：**

- (1) 本プレスツアーは G20 愛知・名古屋外務大臣会合推進協議会が主催し、企画・運営を名鉄観光サービス株式会社が担当しています。
- (2) 本ツアーの内容は、予告なく変更になる可能性があります。
- (3) 参加者には経費の一部を負担していただいておりますが、営利を目的とした事業ではありません。
- (4) 主催者は、ツアー中に生じるいかなる不都合、トラブル、事故等に対して一切責任を負いません。
- (5) 写真・TV 撮影に関しては、担当者の指示に従ってください。
- (6) このプレスツアーは、参加記者による記事の執筆などにより、愛知・名古屋の情報が世界に発信されることを目的に実施しています。参加記者の皆様には、取材に基づく情報発信に最大限努めていただくとともに、記事掲載後は、コピー等の送付をお願いします。

## 【取材先詳細】

### 1. 中部国際空港株式会社

～中部地方の玄関口・中部国際空港が次に目指す姿～

第2ターミナル（内覧会）と FLIGHT OF DREAMS を訪れ、空港職員から、開港 15 周年を迎える国際空港が次に目指す姿について聞く。

中部国際空港は、航空旅客数が 7 年連続で増加し、2018 年度は開港以来の過去最高の 1,235 万 6 千人を記録した。国際線の旅客数は前年 10% 増の 610 万人、国内線の旅客数は前年 5% 増の 626 万人となり、旅客数全体では前年 7% 増であった。中国や東南アジアをはじめとした訪日外国人旅行者（インバウンド）の勢いが目立ち、格安航空会社（LCC）の増便につながった。

今後も LCC の増便や新規就航が期待されることから、2019 年 9 月 20 日に第 2 ターミナルが新たに供用開始となる。新ターミナルビルは、「利便性と機能性の追求」「拡張性の確保」「新たな賑わいの創出」をコンセプトに整備が進められており、建物自体は機能性を追求した簡素な構造とする一方、ファストトラベル、スマートセキュリティを実現する最新の機器を導入し、高い利便性を確保する。

また、2018 年 10 月に開業した「FLIGHT OF DREAMS」はボーイング 787 初号機の展示をメインとした空港直結の複合商業施設で、2019 年 5 月 31 日には来館者数が 100 万人に到達した。中部国際空港は、8 月 30 日にオープンする国際会議・展示場「Aichi Sky Expo」と合わせた集客の相乗効果により、飛行機に乗らなくても「来たら楽しい」空港を目指す。



（中部国際空港株式会社提供）

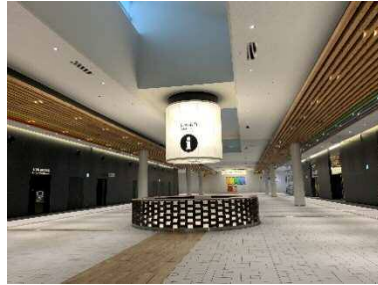
### 2. Aichi Sky Expo

～日本初の国際空港直結型の国際会議・展示場の戦略～

開業直後の Aichi Sky Expo を訪れ、施設視察を行うとともに、運営会社の社員から、今後の展望や戦略について聞く。

日本一新しい国際会議・展示場として 2019 年 8 月 30 日に開業する「Aichi Sky Expo」。日本で 4 番目に大きい 60,000 m<sup>2</sup>の国際会議・展示場で、日本初の国際空港直結型の国際会議・展示場で、名古屋から電車で 30 分でアクセスできる抜群の立地環境にある。

日本における重要なテクノロジー、産業、知の拠点である愛知において、国内外のグローバルなイベントを主催し、日本やアジアの MICE 市場の成長に繋げる。



(愛知国際会議展示場株式会社提供)

### 3. 名古屋城本丸御殿

～焼失した歴史遺産を蘇らせた匠の技～

名古屋城本丸御殿を訪れ、復元工事を受託した株式会社安藤・間<sup>はざま</sup>の吉原氏（当時の名古屋城本丸御殿作業所長）や復元工事に携わった職人、名古屋市職員から、復元工事で用いられた匠の技と工事に込められた想いを聞く。

名古屋のシンボルである名古屋城は、徳川家康が天下統一の最後の布石として築いたとされ、1615年に完成した。当時の一流の職人たちによる最先端の技術を結集した名古屋城本丸御殿は、近世城郭御殿の最高傑作といわれた。天守閣と共に 1930（昭和 5）年に国宝第 1 号に指定されたが、残念ながら 1945（昭和 20）年 5 月に空襲で焼失してしまう。戦後の復興で 1959（昭和 34）年に天守閣は再建されたが、本丸御殿は平成になってようやく復元された。

2009 年（平成 21）年 1 月に着工した復元工事は、市民などからの寄付 50 億円を含む総事業費 150 億円をかけた名古屋市的一大プロジェクトとなった。

復元工事の施工を担当したのは、株式会社安藤・間、松井建設株式会社、八神建築株式会社の 3 社からなる特別共同企業体。名古屋城本丸御殿は、焼失前と同等の歴史的文化的価値を有する建物となるよう、原則として旧来の材料・工法で進められた。今回の復元は、詳細な資料を元にしたかつてない規模で、絵を含め、大工、飾金具職人など、昔の技術、技法を学び、継承するまたとない機会となった。





(名古屋城総合事務所、株式会社安藤・間提供)

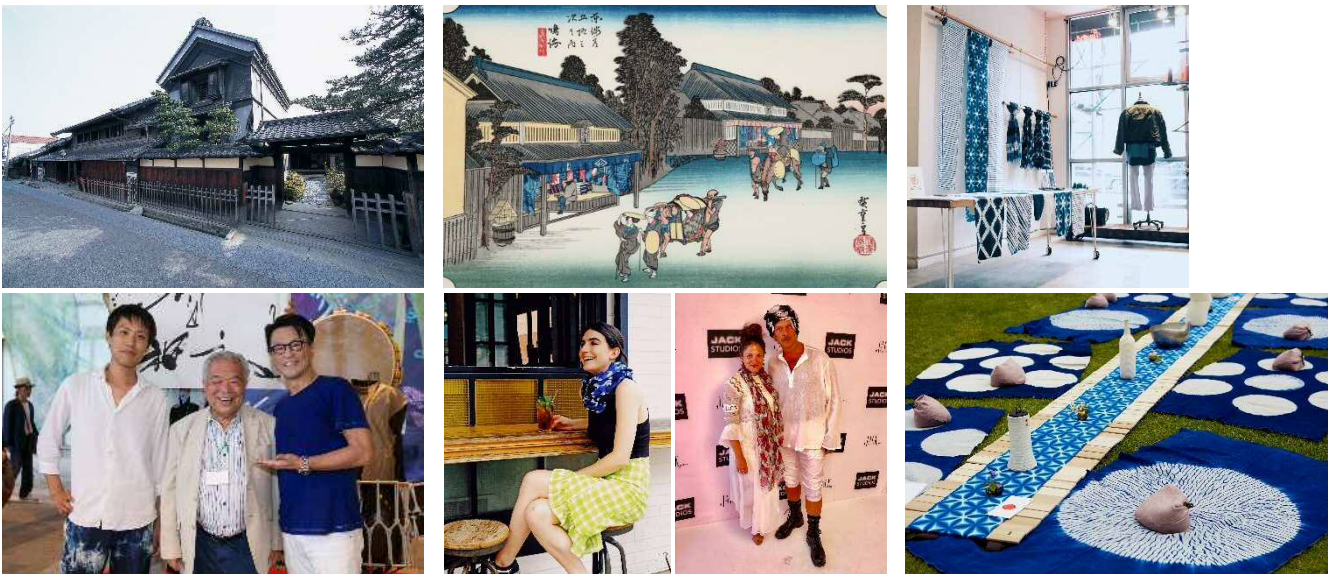
#### 4. 竹田嘉兵衛商店・有松絞り

～400年の伝統産業「有松絞り」を世界へー若きアーティストの挑戦ー～

有松絞りの製造・卸を行う株式会社竹田嘉兵衛商店を訪れ、会長の竹田氏や、海外展開に挑戦する若き絞り職人の藤井氏から、有松絞りの再生にける想いや今後の展開について聞く。

有松絞りは、名古屋市有松地区を中心に、400年以上前から生産される絞り染めである。木綿布を藍で染めたものが代表的で、多種多様な技法で布を糸で絞り、さまざまな模様を浮かび上がらせる。1975年9月に国の伝統工芸品に指定されたほか、本年5月、江戸時代から残る旧東海道沿いの貴重な建物群や伝統工芸品・有松鳴海絞、からくり山車など、地域が積極的に振興活動に取り組んでいることが評価され、「江戸時代の情緒に触れる絞りの産地」として、有松地区が文化庁による日本遺産に認定された。

しかし、伝統工芸にしばしば見られるように、有松絞りも、職人の高齢化と後継者不足が原因で、衰退の危機にある。こうした中、独自の技法「万華鏡染め」を開発した絞り染めアーティスト、藤井祥二氏と、デザインプロデュース業、今枝和仁氏らが、新ブランド「ARIMATSU SHIBORI SOME」を立ち上げ、アメリカ・ニューヨークで販売を開始した。「有松絞りの新たな工芸価値を世界に伝え、次の400年に繋げたい」と語る若きアーティストは、絞り製造卸の老舗である竹田嘉兵衛商店と連携し、有松地区から世界へのネオ・ジャポニズム文化の発信に取り組んでいる。



(株式会社竹田嘉兵衛商店、ARIMATSU SHIBORI SOME 提供)

## 5. 玉屋庄兵衛工房

～ものづくりの礎となった「からくり人形」を守る職人の技～

玉屋庄兵衛工房を訪れ、九代玉屋庄兵衛氏から、からくり人形の歴史や技術の伝承について聞く。

祭り山車の上で華麗に舞い踊る人形たち、お座敷でお茶を運んだり弓に矢をつがえ的に当てたりする童子たちは「からくり人形」と呼ばれ、日本においては長い歴史を持ち、尾張では「山車からくり」・「座敷からくり」として発達を遂げた。人形を動かすからくり仕掛けは、現代の機械工学にも通じる原理を具えた機械そのものであり、産業基盤形成の礎になっているといわれている。現在、愛知県に自動車、産業用ロボットなどの企業が多く、工業製品の出荷高が常にトップクラスにあることのルーツは、からくり人形の伝統的な匠の技の発展にあるといえる。現在も伝統文化の伝承のため、国内外において普及活動を行っている。



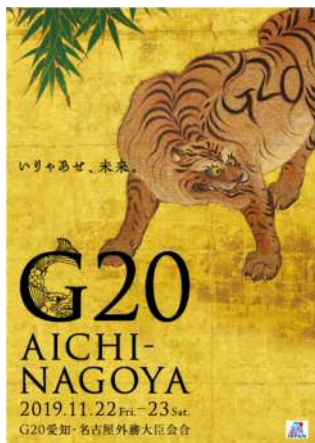
(九代玉屋庄兵衛後援会提供)

## 6. G20 愛知・名古屋外務大臣会合推進協議会

～会合の成功に向けた開催地元の取組～

G20 外務大臣会合の会場である名古屋観光ホテルにて、協議会の幹部から、地元の取組についてご説明します。

G20 愛知・名古屋外務大臣会合推進協議会とは、G20 外務大臣会合の愛知・名古屋での開催成功に向け、地元として支援するとともに、当地域の魅力を広く世界に発信するために設立された支援組織である。構成団体は、愛知県、名古屋市、地元経済団体、観光振興団体、交通事業者となっている。



**G20**  
AICHI-NAGOYA  
Foreign Ministers' Meeting

((c)2019 G20 愛知・名古屋外務大臣会合推進協議会)